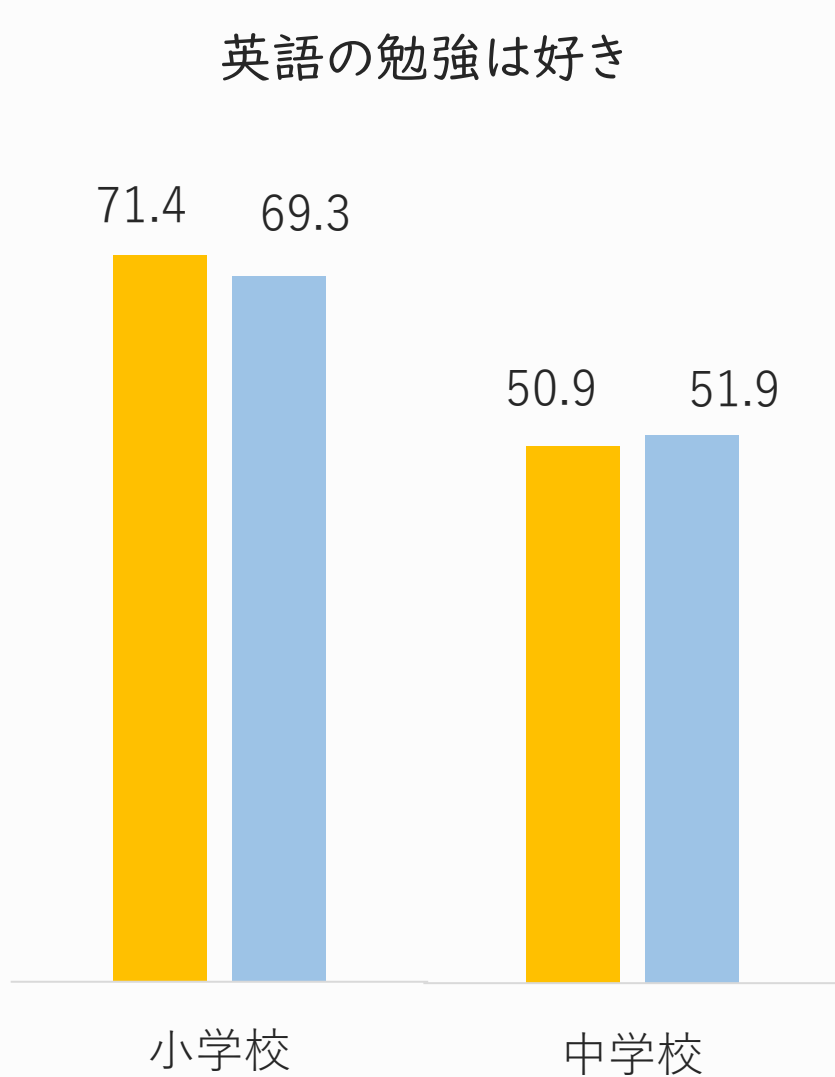


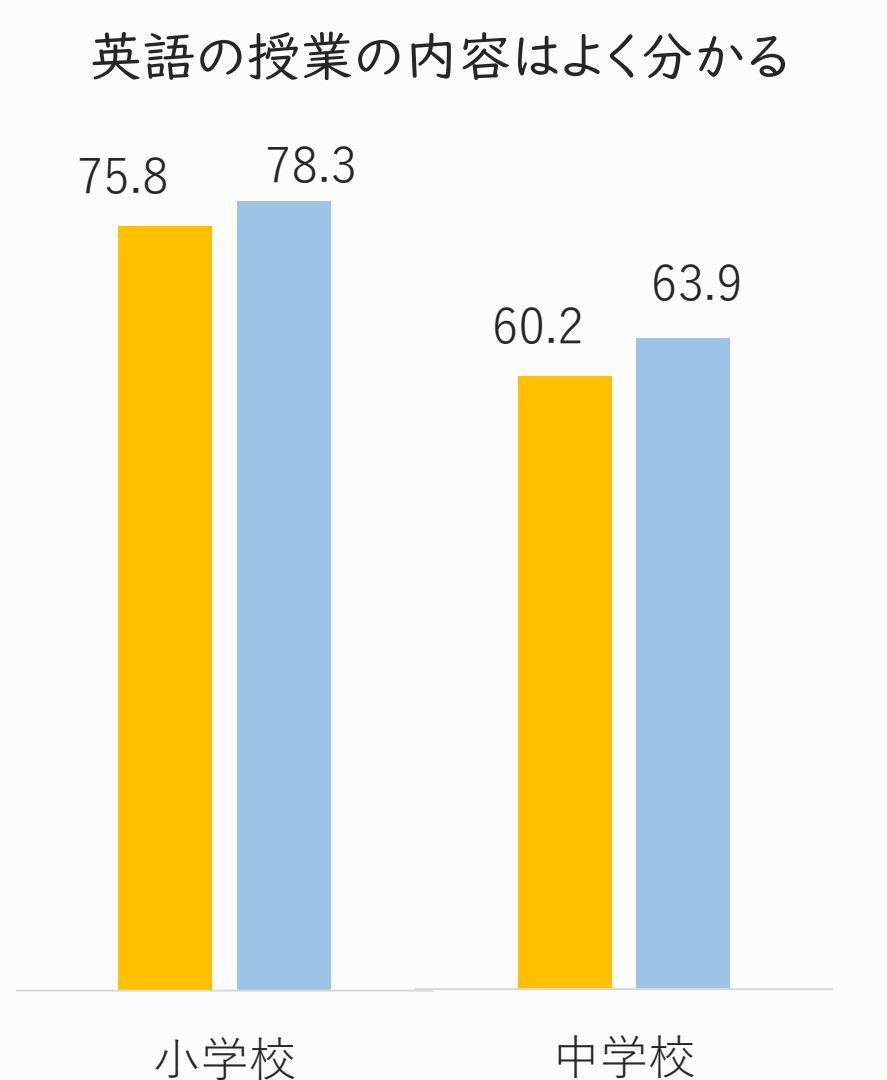
グローバル人材育成に向けた 英語教育推進事業について



01 英語教育の現状



山形県
全国



全国学力・学習状況調査(小学校はR6値 中学校はR5値)



令和9年度までに、
CEFR A1相当以上の英語力を有する生徒の割合60%以上を目標（全都道府県50%以上）

○ 生徒の英語力は着実に向上（R6値 52.4%）

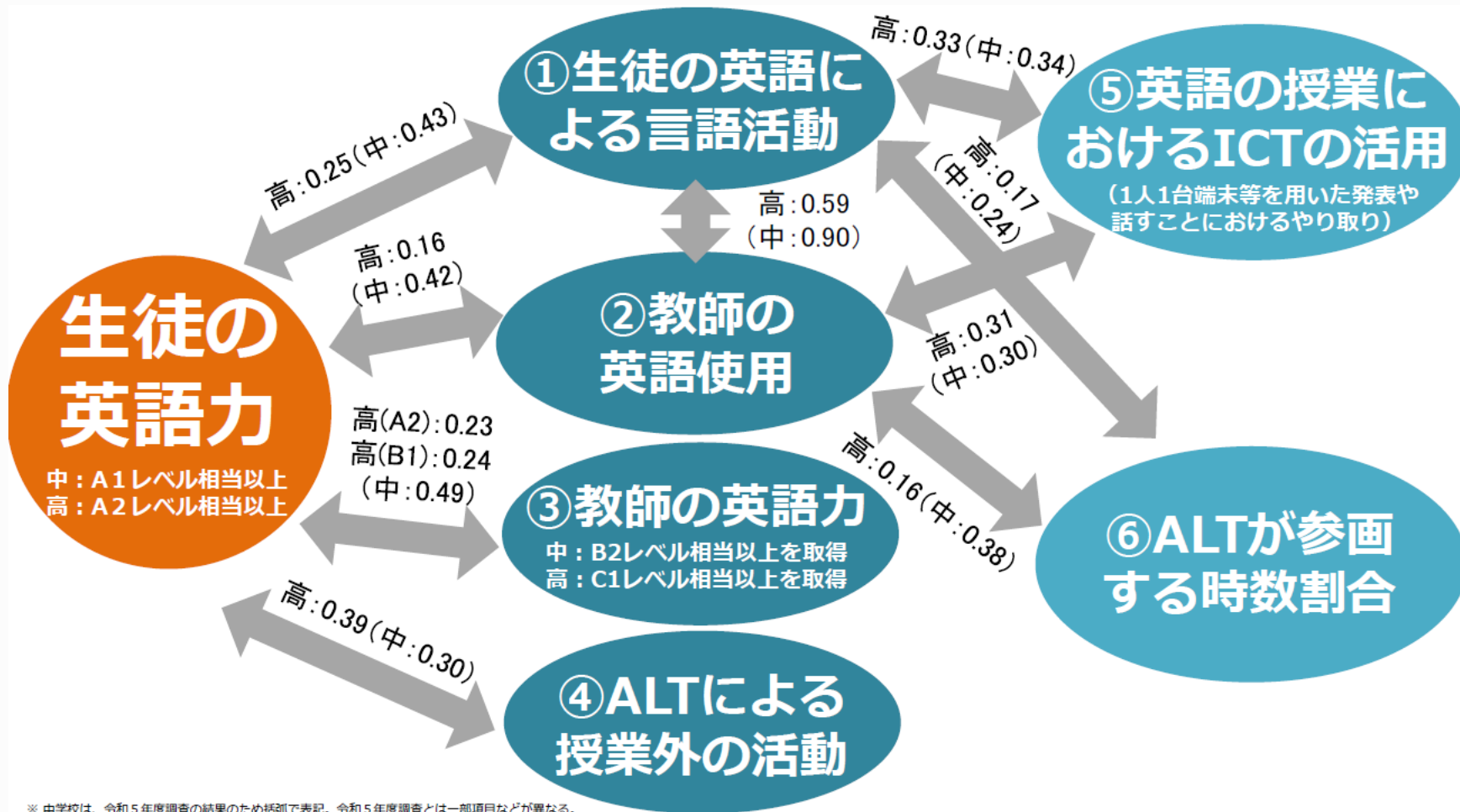
▲ 「話すこと」「書くこと」、英語を使う機会の少なさや学ぶ動機付けの弱さが課題

01 英語教育の現状



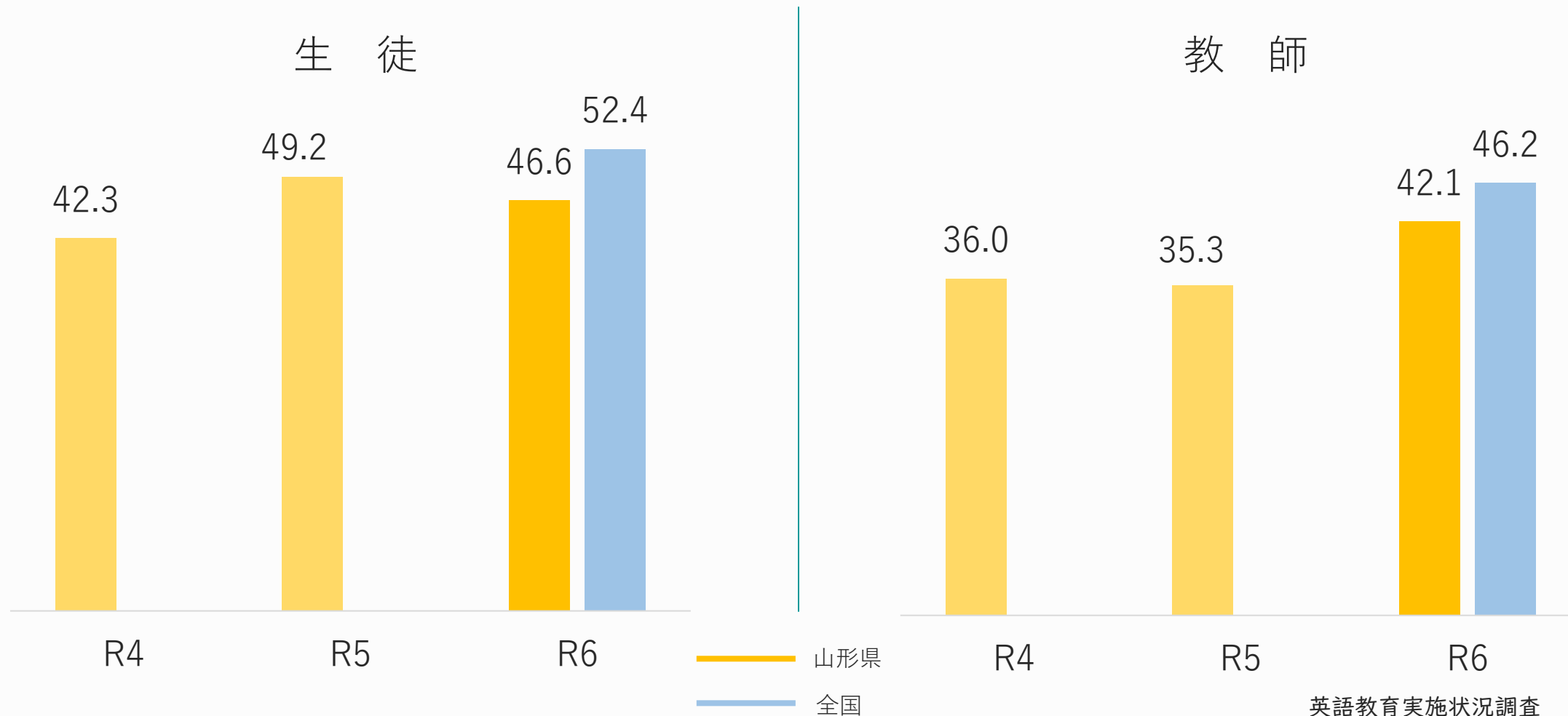
生徒の英語力向上には、

○英語による言語活動 ○教師の英語使用・英語力 ○ALTとの授業外活動等 が影響



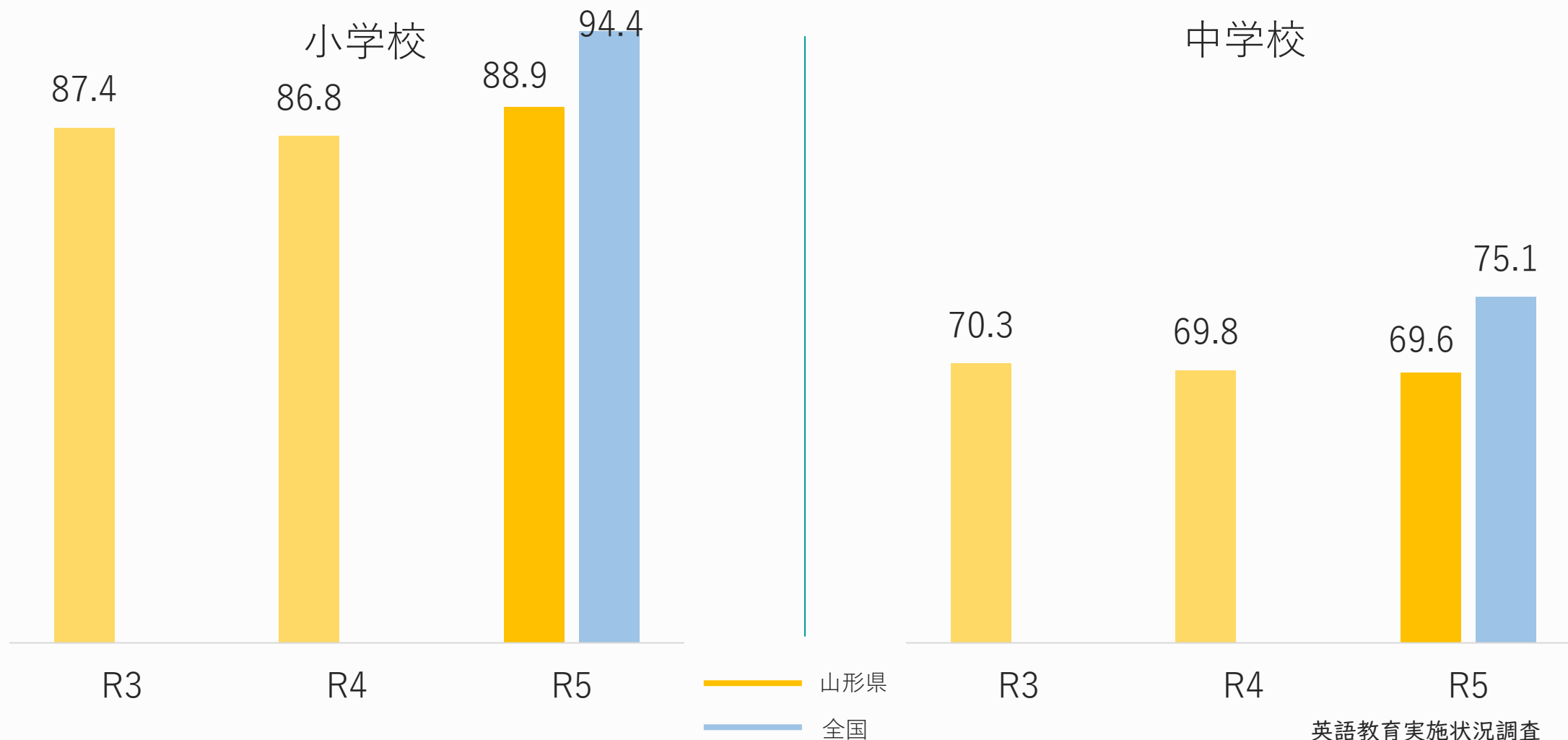
※ 中学校は、令和5年度調査の結果のため括弧で表記。令和5年度調査とは一部項目などが異なる。

英語力の状況(中学校)



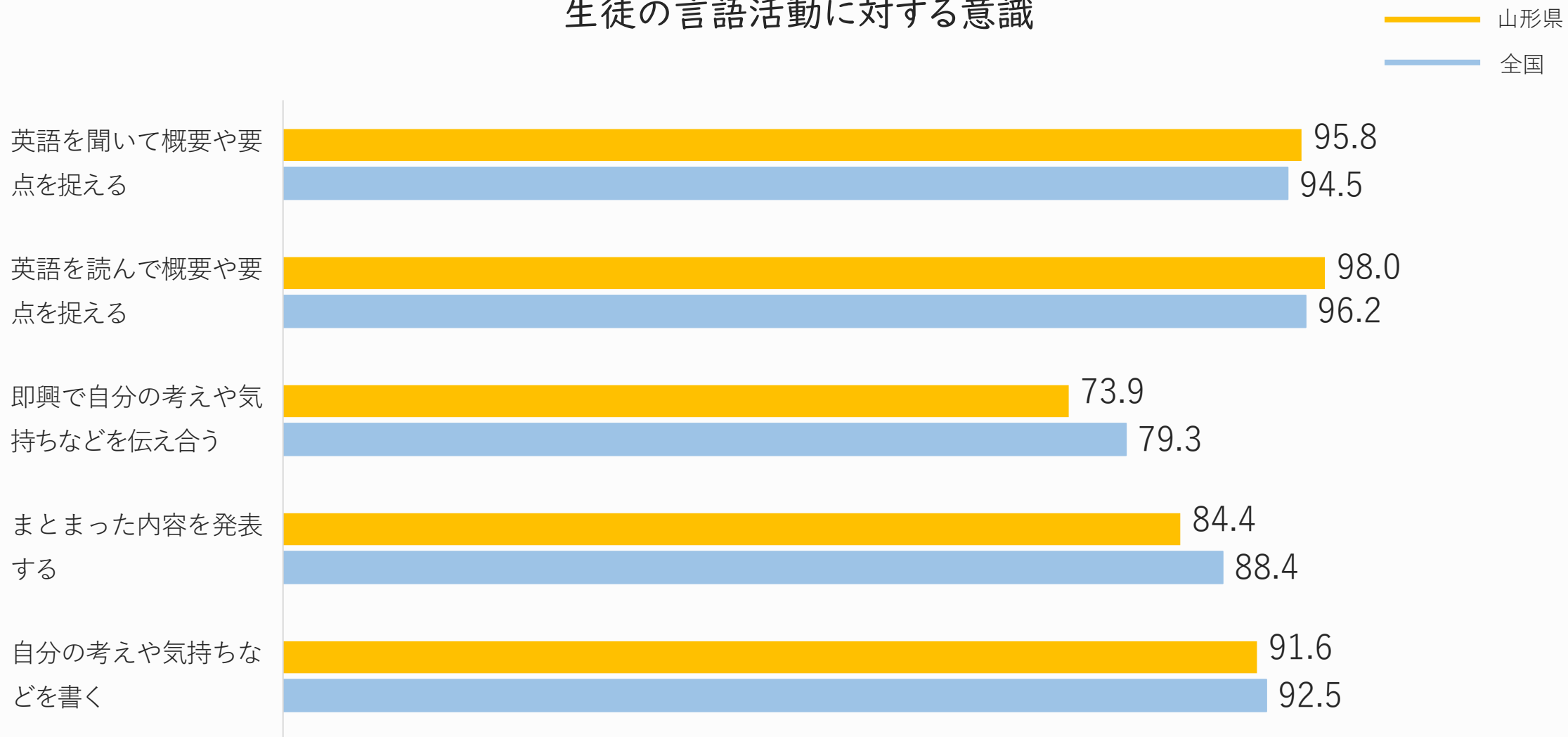
01 英語教育の現状

児童生徒の言語活動（授業の50%以上）

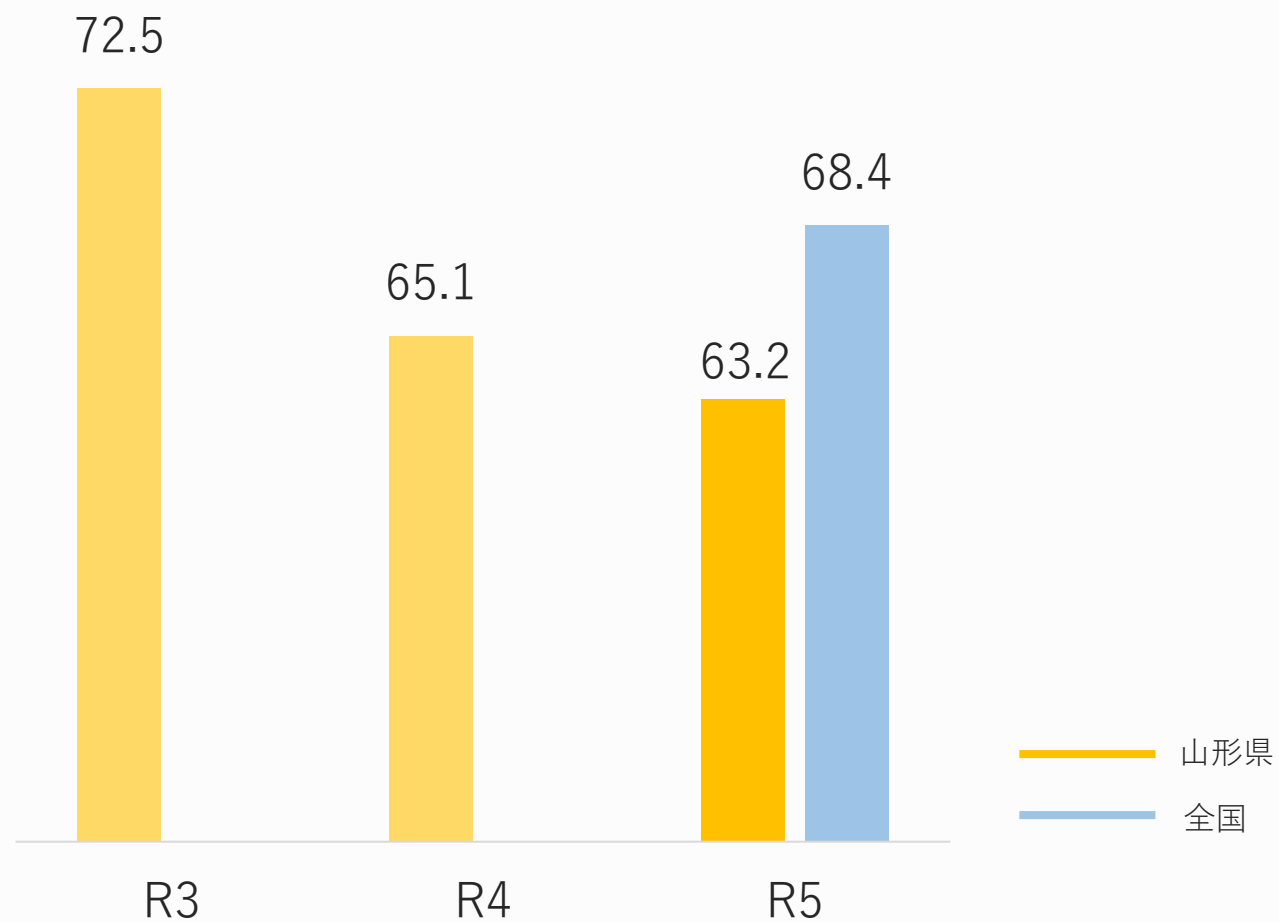


01 英語教育の現状

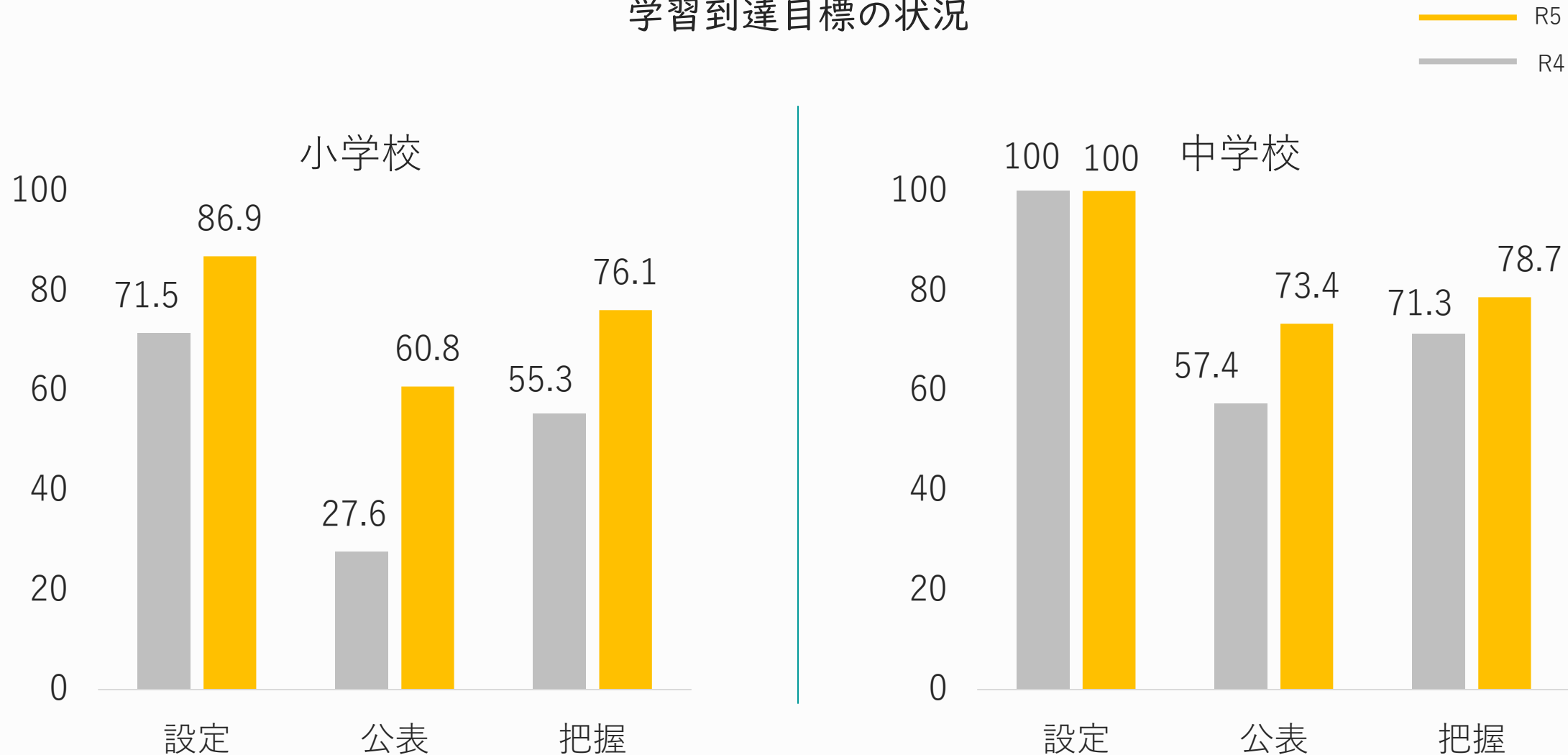
生徒の言語活動に対する意識



中学校教師の英語使用（発話の50%以上）



学習到達目標の状況



柱1

小:「話すこと」
中:「話すこと」「書くこと」の
英語発信力の向上

- ・児童生徒の英語使用の充実
- ・教師の英語による発話

柱2

学年間・校種間の系統的な
指導の充実

目標のつながり

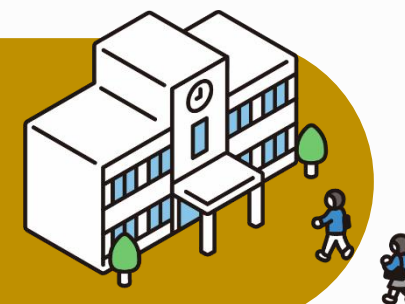
柱1

小:「話すこと」
中:「話すこと」「書くこと」の
英語発信力の向上

柱2

学年間・校種間の系統的な
指導の充実

全県に広く波及



02 事業のねらいと内容

グローバル人材育成に向けた英語教育推進事業

「英語指導力向上のための実践推進校」による英語教育の推進 ～英語発信力の向上～

義務教育課

目指す子ども像

自ら思考・判断しながら、英語で自分の考えや気持ちを精一杯伝え合う子ども

小学校:自分のことや身近なことについて、考えや気持ちなどを伝えたり質問したりする児童
中学校:日常的・社会的な話題について、考えや気持ち、事実や理由などを即興で伝え合ったり、まとまりのある内容を伝えたりする生徒

目指す授業の姿

英語で自分のことなどを表現する力が高まり、もっと英語を使いたいと思える授業の実現

小学校:音声による慣れ親しみを基に、英語でのやり取りを大切にした授業
中学校:既習表現を活用して、即興でのやり取りやまとまりのある内容を表現することを大切にした授業

対応

英語発信力の育成に向けた、各学校における系統的な指導の実現

- 1 求められている英語教育を実践していく実践推進校の指定
- 2 具体的な取組みを基にした実践や英語指導に関する情報の県全体への発信と共有

「実践推進校」における授業実践

- 1 各年度10校(小5、中5)の実践推進校を指定し、各学校の系統的な授業実践により、各地区でモデルとなる実践を示す。

事業概要

- (1) 外部講師を招聘した授業改善の充実(年2回)
- (2) 計画・検証・改善を充実させる研究協議会(年3回)
- (3) 非常勤講師の活用による授業補助や教材開発支援
※実践推進校(小・中)に配置
- (4) 県教育委員会指導主事による伴走支援

○実践推進校(●)

- ・英語教育実践リーダー等が培った実践を活かして、校内研究体制を強化
- ・児童生徒と教員の英語使用の充実を図る
- ・校内外で継続的に英語教育推進に努める



県内への指導実践の発信・共有(クラウドサービスの活用)

- 2 指導実践等を各地区や県内に随時発信して、情報共有することにより、県内英語教員全体の指導力を向上させる。

事業概要

- (1) 公開授業研究会による実践普及(11月～12月)
 - ・各地区の実践推進校が授業を公開
- (2) クラウド等による実践事例の発信
 - ・実践推進校の実践等を発信(年5回)
 - ・講師の助言や公開研情報、英語教育に関する情報を発信(年3回)

○クラウドサービス

【Google Workspace for Education】

- ・実践事例や参考資料を英語担当教員同士がオンライン上で共有して有効活用
- ・実践推進校同士のコミュニケーションを活性化し、より高いレベルの授業を実施
- ・各地区での打合せや校種別の情報交換等をオンライン上で実施

02 事業のねらいと内容

グローバル人材育成に向けた英語教育推進事業

「英語指導力向上のための実践推進校」による英語教育の推進 ～英語発信力の向上～

義務教育課

目指す子ども像

自ら思考・判断しながら、英語で自分の考えや気持ちを精一杯伝え合う子ども

小学校:自分のことや身近なことについて、考えや気持ちなどを伝えたり質問したりする児童
中学校:日常的・社会的な話題について、考えや気持ち、事実や理由などを即興で伝え合ったり、まとまりのある内容を伝えたりする生徒

目指す授業の姿

英語で自分のことなどを表現する力が高まり、もっと英語を使いたいと思える授業の実現

小学校:音声による慣れ親しみを基に、英語でのやり取りを大切にした授業
中学校:既習表現を活用して、即興でのやり取りやまとまりのある内容を表現することを大切にした授業

対応 英語発信力の育成に向けた、各学校における系統的な指導の実現

- 1 求められている英語教育を実践していく実践推進校の指定
- 2 具体的な取組みを基にした実践や英語指導に関する情報の県全体への発信と共有

「実践推進校」における授業実践

- 1 各年度10校(小5、中5)の実践推進校を指定し、各学校の系統的な授業実践により、各地区でモデルとなる実践を示す。

事業概要

- (1) 外部講師を招聘した授業改善の充実(年2回)
- (2) 計画・検証・改善を充実させる研究協議会(年3回)
- (3) 非常勤講師の活用による授業補助や教材開発支援
※実践推進校(小・中)に配置
- (4) 県教育委員会指導主事による伴走支援

○実践推進校(◎)

- 英語教育実践リーダー等が培った実践を活かして、校内研究体制を強化
- 児童生徒と教員の英語使用の充実を図る
- 校内外で継続的に英語教育推進に努める



県内への指導実践の発信・共有(クラウドサービスの活用)

- 2 指導実践等を各地区や県内に随時発信して、情報共有することにより、県内英語教員全体の指導力を向上させる。

事業概要

- (1) 公開授業研究会による実践普及(11月~12月)
 - 各地区の実践推進校が授業を公開
- (2) クラウド等による実践事例の発信
 - 実践推進校の実践等を発信(年5回)
 - 講師の助言や公開研情報、英語教育に関する情報を発信(年3回)

○クラウドサービス

【Google Workspace for Education】

- 実践事例や参考資料を英語担当教員同士がオンライン上で共有して有効活用
- 実践推進校同士のコミュニケーションを活性化し、より高いレベルの授業を実施
- 各地区での打合せや校種別の情報交換等をオンライン上で実施

英語を用いたコミュニケーション能力の育成

目指す子どもの姿

自ら思考・判断しながら、英語で自分の考えや気持ちを精一杯伝え合う

小学校

考えや気持ちなどを伝えたり質問したりする

中学校

考えや気持ち、事実や理由などを伝え合ったり、まとまりのある内容を伝えたりする



英語を用いたコミュニケーション能力の育成

目指す授業の姿

英語で自分のことなどを表現する力が高まり、
もっと英語を使いたいと思える授業

小学校

音声による慣れ親しみを基に、英語でのやり取りを大切にする

中学校

既習表現を活用して、即興でのやり取りやまとまりのある内容を表現
することを大切にする



02 事業のねらいと内容

グローバル人材育成に向けた英語教育推進事業

「英語指導力向上のための実践推進校」による英語教育の推進 ～英語発信力の向上～

義務教育課

目指す子ども像

自ら思考・判断しながら、英語で自分の考えや気持ちを精一杯伝え合う子ども

小学校:自分のことや身近なことについて、考えや気持ちなどを伝えたり質問したりする児童
中学校:日常的・社会的な話題について、考えや気持ち、事実や理由などを即興で伝え合ったり、まとまりのある内容を伝えたりする生徒

目指す授業の姿

英語で自分のことなどを表現する力が高まり、もっと英語を使いたいと思える授業の実現

小学校:音声による慣れ親しみを基に、英語でのやり取りを大切にした授業
中学校:既習表現を活用して、即興でのやり取りやまとまりのある内容を表現することを大切にした授業

対応

英語発信力の育成に向けた、各学校における系統的な指導の実現

- 1 求められている英語教育を実践していく実践推進校の指定
- 2 具体的な取組みを基にした実践や英語指導に関する情報の県全体への発信と共有

「実践推進校」における授業実践

- 1 各年度10校(小5、中5)の実践推進校を指定し、各学校の系統的な授業実践により、各地区でモデルとなる実践を示す。

事業概要

- (1) 外部講師を招聘した授業改善の充実(年2回)
- (2) 計画・検証・改善を充実させる研究協議会(年3回)
- (3) 非常勤講師の活用による授業補助や教材開発支援
※実践推進校(小・中)に配置
- (4) 県教育委員会指導主事による伴走支援

○実践推進校(●)

- ・英語教育実践リーダー等が培った実践を活かして、校内研究体制を強化
- ・児童生徒と教員の英語使用の充実を図る
- ・校内外で継続的に英語教育推進に努める



県内への指導実践の発信・共有(クラウドサービスの活用)

- 2 指導実践等を各地区や県内に随時発信して、情報共有することにより、県内英語教員全体の指導力を向上させる。

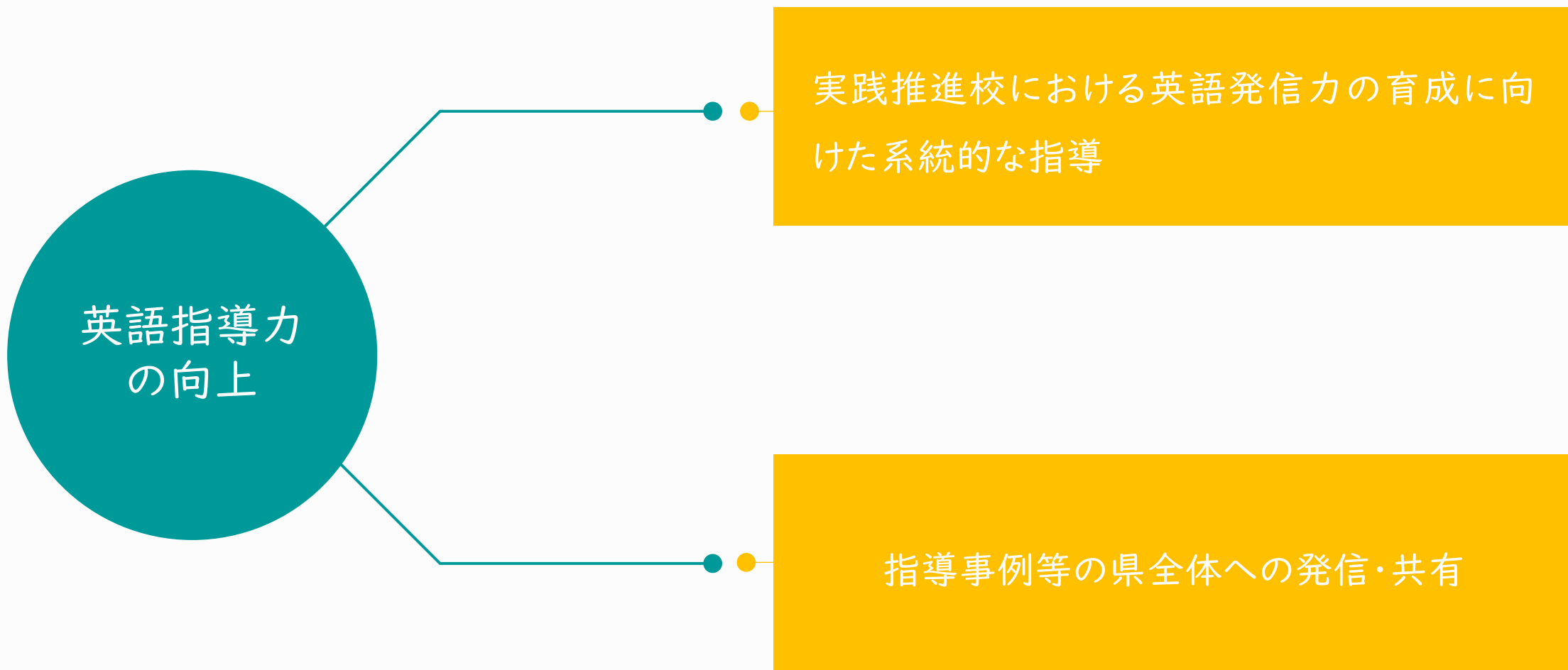
事業概要

- (1) 公開授業研究会による実践普及(11月～12月)
・各地区の実践推進校が授業を公開
- (2) クラウド等による実践事例の発信
・実践推進校の実践等を発信(年5回)
・講師の助言や公開研情報、英語教育に関する情報を発信(年3回)

○クラウドサービス

【Google Workspace for Education】

- ・実践事例や参考資料を英語担当教員同士がオンライン上で共有して有効活用
- ・実践推進校同士のコミュニケーションを活性化し、より高いレベルの授業を実施
- ・各地区での打合せや校種別の情報交換等をオンライン上で実施





実践推進校による授業実践

- 01 外部講師を招聘した授業改善の充実
- 02 計画・検証・改善の充実を図る研究協議会
- 03 非常勤講師の活用による授業補助・教材開発支援
- 04 県教育委員会指導主事による伴走支援



指導事例等の
発信・共有

- 01 授業公開による実践普及
- 02 クラウド等の活用による実践の発信・共有

令和8年度実践推進校

小学校

山形市立西山形小学校

寒河江市立寒河江小学校

新庄市立萩野学園

高畠町立屋代小学校

鶴岡市立あさひ小学校

中学校

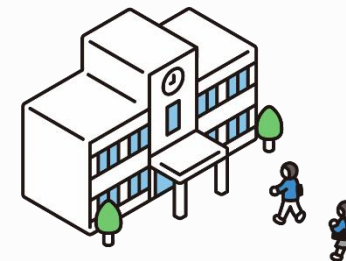
山形市立金井中学校

寒河江市立陵南中学校

最上町立最上中学校

白鷹町立白鷹中学校

鶴岡市立羽黒中学校



御指導いただく先生方



佐藤 博晴 先生(山形大学)

青柳 敦子 先生(東北芸術工科大学)

太田 洋 先生(東京家政大学)

大岩 彩子 先生(敬和学園大学)

阿野 幸一 先生(文教大学)

金森 強 先生(文教大学)

阿部フォード 恵子 先生(CALAグローバル)

オンライン指導

+

来校指導